

■王塚古墳石室の支柱取り換え作業を行いました

社会教育課 文化財振興係

豪華で不思議な壁画が描かれる王塚古墳の石室は、昭和23年と41年に石材の亀裂が発見され、崩落防止のため12本の支柱で支えられました。この支柱は、石室を守るために必要なものですが、壁画をささぐり視認性を悪くしており、また設置してから長い年月が経ち老朽化が心配されていました。

令和4年度から文化財保護の専門家からなる委員会を立ち上げて、支柱の改善に向けて動き出しました。委員会では支柱を取り外すことも議論されましたが、土の中にある石室全体の構造が不明なため、亀裂の進行具合を計算することが出来ず断念しました。しかし、技術の進歩により、直径が細い支柱を製作することが可能となり、令和5年度に3本の支柱を新しい支柱に取り換えることになりました。

王塚古墳は装飾古墳として唯一の特別史跡で、石室全体に色が塗られているため、防護服やゴム手袋を着用し、細心の注意を払って支柱の取り換え作業を行いました。



◀交換前



交換後▶



▲支柱の取り換え作業の様子

支柱の取り換えは無事に完了し、以前のものより細くなったので壁画の視認性が向上しました。今後は、残りの支柱と石室内の照明の改善に向けて取り組んでいきます。

■学力調査の結果を受けての各学校の学力向上の取組

学校教育課 教務係

10月号にて令和6年度「全国学力・学習状況調査（小6、中3）」の結果をお知らせしました。そこから見えた課題改善のための、授業づくりと学力基盤づくりについて紹介します。

【授業づくり】

○桂川小学校では

授業の冒頭で子どもたちの「やってみタイ」を引き出し、終末段階で学びを「ふりカエル」ことで、主体的な学びにつなげています。

○桂川東小学校では

目的に応じて自分の考えを書く力の育成を目指しています。そのために、子どもたちが「書きたくなる」よう、意欲を高める工夫を行っています。

○桂川中学校では

子どもたちが「やってみたい」と実感できる導入の工夫とともに、生徒それぞれが自己の変容を自覚することのできる「振り返り活動」を毎時間行うようにしています。

3校共通の実践として、タブレットを活用して、各自の考えを交流する場を設けています。さらに、毎週

1回、新聞記事を読んで読解力の向上を目指しています。

【学力基盤づくり】

○桂川小学校では

- ・「はげみタイム」で脳の活性化
- ・「チャレンジタイム」で復習
- ・「きわめタイム」で活用力を育成
- ・「フォローアップタイム」で基礎基本の定着

○桂川東小学校では

- ・個の課題に応じた反復学習
- ・「東つ子タイム」で自己選択学習
- ・算数科での少人数分割授業
- ・プレテストに基づき、きめ細かな個別指導

○桂川中学校では

- ・毎朝10分間の「はげみの時間」で基礎基本の定着
- ・テスト実施後、自ら課題を見つけ、2週間の「リカバリーウィーク」で課題を克服
- ・毎週1時間、英語・数学の少人数分割授業による個に応じたきめ細かな指導

学校教育課としては、「子どもたちが夢を実現できる」よう、各学校への指導・支援を継続・充実してまいります。